



自分が動けば世の中が変わる！
高校生の「行学」を主導

久常 宏栄さん(田熊)

昭和42年岡山県生まれ。大学を卒業後、県立高校の数学教諭として採用され、平成18年度から津山東高校に勤務。平成28年度から地域で学ぶ課題発見解決型の探究学習「行学」を始め、現在に至る。平成29年度から始まった市内の公立高校4校が協力して開講する講座「地域創生学」に携わる。同講座は、経済産業省と文部科学省が主催する「第9回キャリア教育推進連携表彰」で奨励賞を受賞。

行学に参加する高校生



▲氾濫した当時の川の水位を確認



▲現地に出向き、住民から直接話を聞く



行学とはどのような授業ですか？

高校生が地域に出向き、フィールドワーク(現地で取材・調査)を行い、自分たちの目線で地域の良さを発見し、課題解決に向けた提案を行政や地域の人たちに伝える、実践を主とした講座です。

地域に出向いて直接社会に触れることで、働く意味や生き方を考え、目標や目的を持った進路を選択する力を養います。

行学を始めたきっかけは？

進学や就職した卒業生が、思いと現実とずれがあることに気づき、途中で進路を変更する場面に遭遇し、キャリア教育(社会の中で、自分らしい生き方をすること)の重要性を感じました。社会と関わる機会があれば、自分がしたいことを見付け、社会で生き抜く力を養うことができると考えました。

続けることができたのは、行学を始めさまざまな高校生の地域活動に協力してくれた企業、地域の皆さんのおかげだと思っています。

行学で生徒たちに学んでほしいことは？

社会に出る前に、さまざまな成功と失敗を経験し、どうすれば改善できるかを考え、仲間と協力して行動できる力を身に付けてほしいです。社会では、自分の考えを相手に伝える能力が必要です。知識だけでなく、生きる力を身に付けてほしい。そのためにも学び続けてほしいです。

これからの展開を教えてください

行学を通じて、自分が動けば世の中が変わることを実感してほしいです。そのためにも、わたしを含めた大人が、高校生が挑戦できる環境を作ることが重要です。高校生に寄り添い、背中を押し続け、世の中に挑戦し続ける人材を育てていきたいです。これからも高校生たちの応援をよろしくお願ひします。

今月号の取材では、室内、屋外、夜など、いろいろな場面で撮影する機会がありました。夜の撮影では、手ぶれのない写真を撮るために三脚が必須。肩に担いで歩き回ったところ、日頃の運動不足がたたり、翌日には筋肉痛が…。長時間の取材にも耐えることが出来るよう、体力づくりに励まなければ…。

7ページのこけないからだ体操、試してもらえましたか。椅子から立ち上がるだけ? いえ、参加者の皆さんは、事も無げにこなしていますが、8秒かけてゆっくり繰り返すのがポイントで、かなりきつい。体操はもちろん、いろいろな人と話ができるのが楽しいと話す皆さんの笑顔に元気をもらいました。()

注目! 今月の津山人の久常宏栄さん。取材中、印象に残った言葉は、成功よりも失敗の方が学びになることです。自分を振り返ると、失敗を経験するたびに、自分の行動に抜けがないかを何度も確認するようになりました。成功を求めず、失敗をおそれず、目の前に集中して取り組む姿勢を続けたいです。(三)

